

令和2年3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2  
管理機関名 愛媛県教育委員会  
代表者名 三好伊佐夫 印

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和元年7月2日（契約締結日）～令和2年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立小松高等学校  
学校長名 森岡 淳二  
類型 プロフェSSIONAL型

#### 3 研究開発名

生活文化の伝承と多世代交流  
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

#### 4 研究開発概要

- (1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究
- (2) 学習指導方法の研究
  - 1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。
  - 2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。
  - 3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。
- (3) 地域課題研究の評価方法の研究
- (4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

#### 5 教育課程の特例の活用の有無

無し

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム 検討会議				○								○
カリキュラム開 発等専門家出勤				○	○	○	○	○	○	○		
地域協働学習 実施支援員出勤				○	○	○	○	○		○		
運営指導委員会				○								○

### (2) 実績の説明

- ① コンソーシアムは、愛媛県教育委員会高校教育課、愛媛県立小松高等学校の他に、教育機関〔愛媛大学・小松小学校・小松中学校〕、愛媛県農林水産部漁政課、西条市〔小松総合支所・子育て交流センター・小松公民館〕、小松つばき会、(株)マルブン、(株)DECOで構成されている。
- ② カリキュラム開発等専門家として、元高等学校家庭科教員藤岡英子氏を非常勤講師として雇用した。
- ③ 地域協働学習実施支援員として、株式会社DECO代表處淳子氏を非常勤職員として雇用した。
- ④ 管理機関（コンソーシアムを含む）における主体的な取組について
  - ・「椿カレンダー」は、コンソーシアムを構成する西条市小松総合支所の依頼、小松つばき会の協力により実施しているもので、今年度は本校生徒作成の複数作品から投票により選定された。
  - ・「第1回まちかど家庭科室～ふらっと～」として、コンソーシアムを構成する小松中学校の生徒・保護者とともにピザづくりを実施した活動は、同じくコンソーシアムの構成団体代表で、地域協働学習実施支援員でもある、株式会社DECO代表處淳子氏が立ち上げた、小・中学生と高校生の交流事業「小松未来塾」の小松高校が担当する部分を発展させたものである。
- ⑤ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について作成していない。
- ⑥ 事業終了後の自走を見据えた取組について
  - ・椿文化の継承は、「小松つばき会」「西条市小松総合支所」から強く要望されている。これらは、椿薫る小松地域の文化の活性化に繋がるものであり、主な活動である、「椿千年の森」の整備や「椿カレンダー」作成等の活動は費用面からも継続が可能である。
  - ・多世代交流の活動は、本事業実施前から、保育園・幼稚園・高齢者介護施設などにおける実習で行われており、事業実施期間中に方法の工夫を加えれば、以後も地域活性化に寄与できる事業として継続できる。

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「課題研究」「生活産業基礎」他における地域での探究学習				○			○	○			○	
外部講師による講義・演習			○	○	○	○	○		○	○	○	
校外研修			○		○	○			○			
交流活動				○	○	○		○				
地域との協働によるコンソーシアムの構築			○	○	○	○	○	○	○	○	○	

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 研究開発
(ア) 椿文化（西条市小松町が大切にしてきた「椿文化」について、「小松つばき会」・西条市小松総合支所と連携して、いかに生活文化を伝承するか研究した。）
【染色実験】6月に「課題研究」として、椿の花びらによる染色実験を行った。乾燥させた椿の花びらを使用し、媒染液や染色方法を変えて比較実験したところ、布地に絹を使い、酢、もしくは酢とミョウバンを加えるとよく染まるという結果を得た。
【講演】6月10日(月)、「課題研究」の授業として、元小松つばき会会長黒川雅子先生による「椿薫る文教の町の小松高等学校」と題する講演をしていただいた。西条市小松町の椿文化について、その歴史や文化継承の取組について学ぶことができた。
【「椿千年の森」の整備】7月8日(月)、学校行事の奉仕活動として、小松中央公園にある、「椿千年の森」の除草・ゴミ拾い等の整備を実施した。
【かき氷コンテスト】8月10日(土)、11日(日)、「食物部」の活動として、東予東部圏域振興イベント実行委員会主催の、西条市で実施された「えひめさんさん物語『水の物語』うちぬき氷プロジェクト」において、桃とスモモのシロップやみかんを椿の花に見立てたかき氷「まるごとTSUBAKI」を考案し、グランプリ賞を受賞した。
【椿の実の採集】9月20日(金)、「フードデザイン」の授業として、「小松つばき会」の椿油製造に協力するため、椿の実を収穫した。
【椿カレンダーの作成】「小松つばき会」、「西条市小松総合支所」と連携し、椿カレンダーの制作を行った。11月1日(金)の小松高祭、11月9日(土)、10日(日)の西条市小松文化祭で、生徒作の優秀作品3点への、多世代にわたる地域住民による人気投票が行われ、デザインが決定された。
【椿の観察】12月16日(月)、「課題研究」の授業として、「椿千年の森」で椿の花の観察を実施した。
【リースの制作】12月18日(水)、「家庭クラブ活動」として、椿の種とカサを収穫し、リースの制作を行い、福祉施設にプレゼントした。
【椿ジャム】2月3日(月)、「課題研究」の授業として、椿ジャムの試作と研究を行った。3品種の花びらを調理し、味や色の違いがどの程度あるか比較した。

(イ)魚食文化（瀬戸内の豊富な水産資源を背景とした「魚食文化」について、地域人材を招いて学習し、レシピ開発・加工品開発のための料理教室等に取り組んだ。）
【魚を使った高校生料理コンテスト】8月3日(土)、西条市藻場づくり環境保全会主催の「魚を使った高校生料理コンテスト」に参加し、ハモのすり身を絹かわなすで挟んでフライにし、麦味噌入りのトマトソースをかけた料理を考案し、優勝した。
【講演会】9月24日(火)、「課題研究」の授業として、漁協女性部西条ブロック会長の川又由美恵氏に「東予地域の魚食文化」についての講演をしていただいた。
【魚料理講習会】12月17日(火)、「家庭総合」の授業として、漁協女性部の川又由美恵氏、稲井藤美氏による「魚料理講習会」を実施した。シタビラメ・コチを使った。
【講演会・講習会】2月10日(月)、「フードデザイン」授業として、地域の方々に「魚料理と発酵食品」について講演会・講習会をしていただいた。
【魚料理講習会】2月18日(火)、「家庭総合」の授業として、小学生や高齢者対象の料理教室をされている地域の方々による「魚料理講習会」を実施した。アジの三枚おろしに挑戦し、アジフライのライスバーガーを調理した。
(ウ)はだか麦（愛媛県が生産量全国1位、なかでも西条市は県内の市町村で生産量1位。はだか麦について、特性を学び、付加価値を付けた利用方法の研究を開始した。）
【講演会】7月12日(金)、「生活産業基礎」の授業として、愛媛県東予地方局地域農業育成室二神種紀氏に、「はだか麦の可能性」のテーマで講演いただいた。はだか麦の種類や現在までの生産の歴史、加工品等ははだか麦に関する基本的知識を学んだ。
【ピッツェリア マルブン 見学】8月8日(木)、ピザ作りの工夫を学ぶため、ピッツェリアマルブンを見学した。
【ピザ作り】8月24日(土)、多世代交流（第1回まちかど家庭科室～ふらっと～）として、小松中学校の生徒・保護者とともにピザづくりを実施した。
【オリジナルレシピの考案】課外活動として、はだか麦を使用したメニューを7点考案し、第50回全国高校生料理コンクールに応募した。
【炊き出し】11月18日(月)、「課題研究」として、はだか麦入りおにぎりの試作を行った。11月24日(日)、多世代交流（第2回まちかど家庭科室～ふらっと～）として、小松小学校「PTA親子ふれあい小松街なみウォークラリー」で、炊き出しを実施した。
【講演会】2月5日(水)、「フードデザイン」の授業として、天然酵母と国産小麦のパン「にじとまめ。」店主の田中直子氏に「パン作り」について講演をしていただいた。
【パン作り教室】2月10日(月)、「フードデザイン」の授業として、天然酵母と国産小麦のパン「にじとまめ。」店主の田中直子氏による「パン作り教室」を実施した。
イ 地域課題研究
(ア)生活文化見学
6月11日(火)、衣・食・住の生活関連産業の見学を実施した。見学先は、タオル美術館（タオル製造過程の見学・タオルを使った作品の鑑賞）、日本食研（食品製造の工場を見学）、ユニバーサルホーム今治展示場（住宅展示場を見学）とした。
(イ)西条市の地域課題学習

<p>7月5日(金)、「課題研究」の授業として、西条市役所市民協働推進課の井上直樹氏他を講師に招き、「これからの地域づくり」と題して、班ごとに地域の課題について意見を出し合うワークショップを実施した。10月7日(月)、「課題研究」の授業で、ワークショップで出された課題を元に、「どうすれば改善できるのか」を班ごとに話し合った。11月18日(月)、「課題研究」の授業で、西条市役所経営戦略部シティプロモーション推進課の日野藍氏を講師に招き、課題解決のため情報発信の方法などについて講義をいただいた。SNSによる発信の方法についての演習も予定している。</p>
<p>(ウ)先進地視察</p>
<p>【兵庫県尼崎班[令和元年8月4日(日)～5日(月)]】4日(日)、尼崎大学「みんなのサマーセミナー」を見学、5日(月)、サマーセミナー研修会(みんなのサマーセミナー実行委員会)に参加した。尼崎市の、地域の子どもから大人までが先生となり授業を行うサマーセミナーの意義と立ち上げまでの経緯について学んだ。</p>
<p>【徳島県上勝町班[令和元年8月5日(月)～6日(火)]】葉っぱビジネスやごみゼロ作戦など地域活性化に取り組んでいる上勝町の視察を通して、過疎化、高齢化が進む地域でも、地域住民が喜ぶ、町独自の持続可能なまちづくりが可能であることを学んだ。</p>
<p>【関東班[令和元年8月5日(月)～6日(火)]】5日(月)、東京都内アンテナショップ見学(愛媛・香川・鳥取・岡山・北海道・大阪)を、6日(火)、千葉県立館山総合高等学校訪問(先進校視察、SPH指定校)を実施した。</p>
<p>【先進地視察報告会】9月30日(月)、「フードデザイン」の授業で先進地視察報告会を実施し、学んだことを共有した。</p>
<p>(エ)SDGsのカードゲーム</p>
<p>10月9日(水)、「課題研究」の授業として、非営利団体「SDGs新居浜KITE」の大西政年氏を講師に招き、SDGsの考え方に基づいたカードゲームを実施した。ゲームは班単位で行われ、各班を一つの国に見立て、班内での相談・他班との交渉を通じて、2030年の未来の国を「経済」「環境」「社会」のバランスがとれたものに作り上げていくゲームであり、生徒のコミュニケーション能力の向上につながった。ゲームの後には、SDGsの考え方に関する講義も行われた。</p>
<p>(オ)伝統文化見学</p>
<p>12月6日(金)、愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターと広瀬歴史記念館・広瀬邸を見学した。四国中央市の伝統産業である和紙作りを学び、水引を使ったストラップ作りを体験した。広瀬歴史記念館・広瀬邸では、明治初期の別子銅山の発展を学んだ。</p>

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ライフデザイン科が対象のプロフェッショナル型の事業であるので、教科「家庭」が対象教科である。その中でも、対象生徒である1年生が履修する「課題研究」「生活産業基礎」が教育課程内における対象科目である。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

教育課程内に位置付けた「課題研究」「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」「フー

ドデザイン」、学校行事、特別活動である食物部の部活動、課外活動である家庭クラブの時間などを利用し、事業を実施した。

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

学校の重点努力目標が「学びをつなぐ 思考力、問題発見・解決能力の育成」であり、その副題を「一伝統を継承し、地域と共に歩む」として、地域協働については、学校全体で取り組むものと意識を明確にした。カリキュラム・マネジメントを推進するためのPDCAサイクルを確立するために、校内においては、管理職、家庭科教員の他に、総合的な探究の時間担当教諭、進路担当教諭、教務担当教諭、生徒指導担当教諭、総務担当教諭、大学院派遣教諭が連携をとっている。

⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

組織	教師及び支援員	役割専門分野
校長		事業総括責任者
研究推進統括	教頭	運営指導委員会・コンソーシアム運営・記録・広報
経理担当	事務長 専門員 主事	備品・需用費・旅費
研究推進委員長	家庭科主任	企画総括・研究推進
研究推進委員会	再任用教育職員	事業推進アドバイザー・指導助言
	総合的な探究の時間担当教諭、大学院派遣教諭	地域創生推進リーダー
	進路課長、教務課長、生徒課長、総務厚生課長	委員
	地域協働学習実施支援員	地域協働学習実施・外部との連携調整・多世代交流実施・広報・運営・指導助言
	カリキュラム開発等専門家	カリキュラム開発・SDGs学習・地域理解学習・資料提供・指導助言
	家庭科教員	企画研究・記録・広報

⑥ カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

上の表の通り、研究推進委員会の一員として、本校教職員と一体となって、事業の推進に取り組む。

⑦ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していくしくみについて

研究推進統括である教頭、研究推進委員長である家庭科主任が、計画通り事業の展開や予算の執行が行われているか、週に数回確認をし、進捗状況の確認を月に一回以上、校長と行っている。また、地域創生推進リーダーである大学院派遣教諭、総合的な探究の時間担当教諭を中心に、地域との関わり方についてアンケートを作成し、定期的実施することによって、意識の変容を分析し、効果的な研究成果が得られているかの確認を行っている。

⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

7月30日(火)の第1回のコンソーシアムにおいては、本研究の趣旨の説明と留意事

項を確認し、協力をお願いし助言をいただいた。その後の研究実践では、講師として来校いただいたり、他の講師を斡旋いただいたり、カリキュラムの内容について指導をいただいたりした。3月6日(金)には、第2回目のコンソーシアムを実施し、今年度の実践内容での課題を踏まえ、各機関で次年度における事業展開への指導助言をいただいた。主な意見は、「若い人の意見を積極的に取り入れて、将来を見据えた魅力ある地域づくりに繋がる事業として欲しい」といった内容であった。

⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会は、愛媛大学教育学部(愛媛県家庭科研究会)の藤田昌子教授を委員長とし、愛媛大学地域協働センター西条・センター長の羽藤堅治教授、(株)マルブンの眞鍋明社長、西条市小松総合支所の玉井宏治所長、西条市小松公民館の曾我部米治館長、愛媛県立西条農業高等学校の松永泰校長の併せて6名で構成されている。

令和元年7月30日(火)に第1回運営指導委員会を実施し、本事業の計画内容について指導いただいた。令和2年3月6日(金)には、第2回運営指導委員会を実施し、今年度の事業内容について指導いただいた。主な意見としては、「一度は地元を離れても、将来地元に戻り、地元を支える人材を育成していくために工夫していくことが大切である。」といったものがあつた。

⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について

専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の企業等との連携を図っている。本年度は、「ピッツェリアマルブン」でピザ作りの工夫を教わり、多世代交流(第1回まちかど家庭科室～ふらっと～)として、小松中学校の生徒・保護者とともにピザづくりを実施した。また、「えひめさんさん物語『水の物語』うちぬき氷プロジェクト」における「高校生&店舗オリジナルかき氷」に参加し、「まるごとTSUBAKI」と名付けたかき氷で椿を表現して、グランプリ賞を受賞した。さらに、魚を使った高校生料理コンテストで優勝した料理は、市内飲食店で調理され、受賞生徒らによる試食会が行われた。

これらの探究活動は、「課題研究」や「生活産業基礎」の授業中に外部講師による講演や料理教室を実施して得た知識を基に、課外活動においてレシピづくりを通じて付加価値を加えることを目指し実施している。「課題研究」と「生活産業基礎」だけでは、授業時間数が不足するため、計画的に「家庭総合」「フードデザイン」の授業にも割り振っており、今後、どの活動をどの科目に割り振るのがより適切かを考慮してカリキュラム・マネジメントを進めたい。

⑪ 成果の普及方法・実績について

ア 研究開発
【かき氷コンテスト】グランプリ受賞後、商品開発で連携した飲食店において夏季期間限定販売された。
【「椿千年の森」の整備】【椿の実の採集】「小松つばき会」の指導で、「椿千年の森」の整備、椿油製造のための椿の実の採集を行った。
【リースの制作】椿の種とカサを収穫し、制作したリースを福祉施設に贈った。
【はだか麦】第1回「まちかど家庭科室～ふらっと～」でのピザづくりに向けて、はだか麦の味噌を使用したピザソース、はだか麦粉を配合したピザ生地の研究開発に取

り組んだ。第2回では、はだか麦入りおにぎりや麦みその豚汁の研究開発に取り組んだ。
イ 地域課題研究
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見つけ、その解決の手段について探究活動を行った。今後は、普通科にも学習を波及させる。</li> <li>SNSの効果的な発信の方法を学び、今後課題解決のための情報発信を行う。</li> </ul>

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

### (1) 目標の進捗状況、成果

<b>①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）</b>		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	70%	1月 75.9%
コンクールやコンテストの入選回数	周知	授業等で全員に周知（市レベルで3回入賞）
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	70%	7月 67.7%、11月 54.8%、1月 72.4%
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	—	—
将来地元での就業を希望する生徒の割合	50%	1月 34.5%
<b>②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）</b>		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	34人	32人（クラス全員が参加）
学校外での実践的な学習活動の回数	7回	17回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	4回	5回
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	80回	69回
<b>③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）</b>		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	5回	12回
地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	5回	11回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	2回	新聞への掲載2回
設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断できない項目がある。		

### (2) 評価

事業評価の指標として、年間3回43項目の生徒アンケート【資料1】を実施すること



にしている。本事業の最終アウトカムに「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」があり、この項目に肯定的な生徒は、7月67.7%、11月54.8%、1月の臨時調査で72.4%と数値に大きなばらつきがあり、目標とする生徒育成が十分に進んでいるかは判断できない。一方、アンケートの分析から以下のことが分かった。

【資料1】生徒アンケートを実施する43項目（7月、11月、3月の年間3回実施）

探究	1地域社会の魅力や課題について考える学習活動の頻度	23失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	
	2上記のような学習活動への熱心さ	24挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	
生徒の成長	18将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい	25目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	
	19地域をよりよくするため、私は地域における問題に関与したい	26尊敬している・憧れている人がいる	
	20自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある	27誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある	
	21将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	28自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	
	22私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない	29人と違うことが尊重される雰囲気がある	
学びの土壌	3地域の人と交流・議論・交渉する機会	30ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	
	4地元企業の人と交流・議論・交渉する機会	多様性	
	5学校の先生と交流・議論・交渉する機会		31様々な立場や役割を持つ人との関わりがある
	6地域の仕事について知る機会		32様々な意見や価値観を持つ人との関わりがある
	7地域の文化について知る機会		33立場や役割を超えて協働する機会がある
	8地域の魅力について知る機会	34意見や価値観を超えて協働する機会がある	
	9地域の課題について知る機会	対話	
	10信頼できる学校の先生がいる		35本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
	11尊敬できる学校の先生がいる		36将来のことや実現したいことを話し合える人がいる
	12本音で接してくれる学校の先生がいる		37周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる
	13本気で接してくれる学校の先生がいる	38行動を振り返り、見直す(内省する)機会がある	
	14信頼できる地域の人がある	39お互いに問いかけあう機会がある	
	15尊敬できる地域の人がある	開かれた	
	16本音で接してくれる地域の人がある		40地域から大切にされている雰囲気を感じる
	17本気で接してくれる地域の人がある		41地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
			42地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある
			43自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある

※アンケートは4件法課題探究的な活動に係る2項目 学びの土壌に係る36項目、生徒の成長に係る5項目  
 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校生と地域社会の関わりに係る実態調査」(2018)による)

生徒アンケートの各項目の相関関係を分析した結果、本事業で育成を目指す「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」生徒の比率は、「自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる」、「ありのままの自分が尊重される雰囲気がある」などの、自分の学びへの周囲のサポート環境の豊かさを感じている生徒ほど数値が高いことが分かった。

また、7月と11月の結果の比較から、地域社会の魅力や課題について考える探究的な学習活動の頻度は倍増しており、とりわけ「地元企業の人と交流・議論・交渉する機会」は、大きく学習機会が増えている。このように活動の頻度が増してなお、およそ9割の生徒が課題探究的な活動に「熱心に取り組む」と回答しており、生徒のニーズや満足度が高いことが分かる。加えて、11月に「人と違うことが尊重される雰囲気がある」「誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある」「立場や役割を超えて協働する機会がある」の肯定率が下がっていることから、アンケート中の安心安全・多様性といった周囲のサ

ポート環境の豊かさを示す項目が、生徒の育成に影響を与えていることを意識した取組が必要である。

さらに、「課題探究的な学習の頻度」（アンケート項目1）と「学びの土壌」（アンケート項目3～43）、生徒の成長（アンケート項目18～22）には相関関係がある。この分析から、「学びの土壌」のポイントが高い生徒の方が、「課題探究的な学習」を頻繁に取り入れた場合に、より生徒の成長を図る項目の数値が高いという結果が出ている。

## 9 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

地域人材の開拓・活用を進めるなかで、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、家庭科科目の「家庭総合」「フードデザイン」、学校行事、課外活動の時間も利用して事業を実施してきた。今後は、研究開発・地域人材開拓と同時に事業内容の精選も行った上で、計画的に事業を実施できるようカリキュラム・マネジメントを進めたい。

研究推進委員会を中心とした学校全体での研究開発体制を充実させ、家庭科以外の教員の協力、家庭科以外の教科・科目の時間の利用を進めたい。そのため、全教員に興味を持つ分野のアンケート調査を行い、準備を進めている。多くの教員の意見を反映させるためにワークショップを行い、協力体制の構築を図りたい。

### (2) 学習指導方法の研究

今年度は、椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化についての基礎的知識や技能の習得、西条市内で行われた食に関する三つのコンテストへ参加・優勝、西条市小松地域における多世代交流などの成果が得られた。今後、新しいレシピや製品の開発、県や全国レベルのコンテストへの挑戦・入賞、生徒が企画から関わる形での多世代交流の実施を目指したい。

### (3) 地域課題研究の評価方法の研究

「高度な知識技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒」を育成できているかを把握するため、アンケート結果に加え、振り返りワークシート、個別の聞き取りの分析が必要と考える。その結果を反映させ、より生徒が意欲を持てるよう、事業内容を改善したい。

### (4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

研究開発の成果を広め地域を活性化するために、現在コンソーシアムを構成する機関に加え、地域の新たな機関との連携も模索している。その中で、将来にわたって継続できる事業内容を検討し、重点的に実施したい。

### (5) その他

研究成果の発信方法は、ホームページが中心であったが、来年度は、マスコミの積極的活用に加え、インスタグラムなどのSNSの利用等も進めたい。

#### 【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	089-912-2954
氏名	野村 竜也	FAX	089-912-2949
職名	指導主事	e-mail	nomura-tatsuya@pref.ehime.lg.jp